

# 区における主な課題及び対応策について

(平成28年度24区取組み調査より)

A: 在宅医療	
区が考える課題	対応策の検討状況
<b>1) 医療資源の確保</b>	
在宅医療に対応できる医療機関・医師が少ない	(府)在宅医療推進コーディネータの活動として推進 医師会による研修会実施 どれだけの往診可能な医師を増やせば在宅診療の体制が一定整うかの検証など、開業医の負担軽減の取組みの推進が必要
<b>2) 切れ目のない在宅医療の体制づくり</b>	
24時間対応の在宅診療体制や介護サービスとの連携が不十分	医師会において、区内を3つに分けたグループ構想を検討 研修会や情報交換会等で他職種と交流や意見交換ができる場を確保 訪問看護ステーションとの連携 情報共有シートの作成
<b>3) その他</b>	
在宅医療に対する関心が低い	医療職に対して介護職から連携しづらい雰囲気が払拭できていないため、医療職、介護職が参画する連絡会の立ち上げ支援
医療介護に関する現状把握・分析不十分	社会資源・区民ニーズを把握し、医師会との情報共有に取組む 他科や訪問看護との連携や、病院と診療所の連携の実態などを把握
B: 入院医療	
区が考える課題	対応策の検討状況
<b>1) 入退院等の切れ目のない体制づくり</b>	
退院支援の体制が未整備	病院の地域医療連携室やケアマネジャーとの意見交換を行い、情報共有ツールについての必要な項目などを整理
区内病院との連携	区内病院との退院連携について、研修会等で課題の共有を図り病診連携を検討
緊急時の入院先の確保	在宅医療・介護連携推進会議、ワーキンググループ会議に病院関係者に参画要請し、情報共有を行いながら、協力体制を構築
後方支援病院の不足	情報提供書、医療介護連携シートの利用促進
入院を契機に在宅時に利用していたケア(例:口腔等)が分断	医療・介護関係者間の細やかな連携の充実
空床情報の共有など病診連携強化	区医師会が中心となり、区内病院空床情報などをiPadで共有する取組み実施
C: 在宅介護	
区が考える課題	対応策の検討状況
<b>1) 介護側の医療的な知識や経験不足</b>	
介護側に医療的な知識が少ない	事例を検証する際に医療に関する知識が得られるよう研修会の開催を検討
医療、介護各々の知識不足	多職種研修等を通じて、相互理解の促進
D: 多職種連携	
区が考える課題	対応策の検討状況
<b>1) 多職種の顔が見える関係推進</b>	
多職種間での顔が見える関係の構築	会議の出席者だけでなく、実務者レベルでの顔が見える関係の構築に向け、在宅医療介護連携相談支援室コーディネーター等と連携し、研修会やワークショップ、ケアマネ連絡会等の実施 介護事業者連絡会等を通じて、積極的な研修参加の周知
<b>2) その他</b>	
医療・介護関係者の情報共有が不足	情報共有シートの作成推進
E: 区民	
区が考える課題	対応策の検討状況
<b>1) 啓発内容・方法</b>	
地域住民への啓発 患者・家族等意思決定支援が必要	リーフレット、マップ、区役所ホームページの掲載、広報誌や講演会の開催 意思決定支援に関するリーフレット作成や区広報誌による周知・啓発を実施
F: 庁内	
区が考える課題	対応策の検討状況
<b>1) 他課との連携</b>	
保健担当と福祉担当の連携の強化	定期的の実務者の情報交換の場を設ける等の打合せやメールでの情報共有
<b>2) 課題抽出の方法</b>	
各種データからの課題抽出ができていない	データから読み取る「データの収集と課題の見つけ方」等の研修を希望